「楽しさ」を支える「学び方_

キリフリ自然学校学び方を学ぶプロジェクト

金井 聡

いうキーワードです。 いうキーワードです。 います。その際に、コンセプトとしている一つが「引き出す」と時にやるというフリースタイルな遊びを同時進行的に展開してフムと子ども達が自由にやりたいことをやりたい人とやりたいています。山登りや川遊びなどのアクティビティ中心のプログす。週末や長期休みに子ども達の体験教育活動を企画・運営しれは、栃木県日光市にて自然学校という分野で活動していま

「駅前ギョウザ祭り?」

です。室内でまったりしたり、薪を割ったり、火遊びしたりと全た。それもあってか、なかなか「祭り」に気持ちが向かないようージがたくさん出てきて盛り上がっているけれど、子ども達はということになりました。スタッフの中では、楽しそうなイメす。子ども達とのミーティングで「駅前ギョウザ祭りをやろう!」私が主催する夏休みのフリーキャンプでの出来事を紹介しま

く関係ない遊びが続きます。

「今回は、このまま「まったり祭り」かな…」と思って見守っていると、「ねぇ、ギョウザはいつ作るの?」と言い始める子が出てきます。そうなれば、差し入れでいただいたおやめる子が出てきます。そうなれば、差し入れでいただいたおやめる子が出てきます。そうなれば、差し入れでいただいたおやとちょっと弱気になっていると、「看板も作ろう!」と言い始める子が出てきます。廃材を探し、絵の具を持ち出し、立て看板を合うが出てきます。廃材を探し、絵の具を持ち出し、立て看板を合うが出てきます。廃材を探し、絵の具を持ち出し、立て看板をおしてつまみ食いを始めると、みんなもりもり食べます。とおいいかな…」とおいてきます。廃材を探し、絵の具を持ち出し、立て看板をおいると、「社え、ギョウザはいつ作るの?」と言い始める子が出たます。「そうだ!駅前でトランプをやって盛り上がっていれば、人が来るかも…。」などなど楽しくて怪しいアイディアがバンバーので、「ない」と思って見守って発りは、このまま「まったり祭り」かな…」と思って見守っていると、「ねぇ、だった」と思って見いる子が出てきます。

ず知らずの人が自分のアクションに対してリアクションしてくず知らずの人が自分のアクションに対してリアクションしてくいらずにもじもじしていた子ども達。それが、いつもは控えめからずにもじもじしていた子ども達。それが、いつもは控えめからずにもじもじしていた子ども達。それが、いつもは控えめいそが大きな声で「ギョウザいりませんか―――」と叫び出したのです。これにはスタッフも子どももびっくり。その男の子が大きな声で「ギラッフも子どもはとかかわらない男の子が大きな声で「ギーとのです。と叫び出したのです。これにはスタッフも子どもはにしていた子ども達。それが、いつもは控えめが入り混じった子ども達とかかわらない男の子が大きな声で「ギーシッフも子どもさいに活発になっていきます。声を掛けてよいのか分が入り混じった子ども達とかかわらない男の子が大きな声で「ギータッフもでは、といった。

なさんニコニコしながら見守ってくださいました。)商店の人が怒鳴り込んでこないかヒヤヒヤでしたが、幸い、みれを成功も失敗も含めて体験できました。(私は駅の人や地域の考えて、作って、声を掛けて、食べてもらって、という一連の流れることが嬉しくて楽しくて仕方がない様子でした。自分達で

「子ども達から始まる」が楽しいにつながる

大人も断然楽しいのです。 大人も断然楽しいのです。 子ども達がこの「待ち」が大事だということを再認しました。なぜなこと。この「待ち」が大事だということを再認しました。なぜなこと。この「待ち」が大事だということを再認しました。なぜなこと。この「待ち」が大事だということを再認しました。なぜなことで、子ども達がこの「ギョウザ祭り」に気持ちが向くまで「待つ」

達からやり始めた行動です。それも見ている大人がドキドキしたりです。駅前の一般人観光客がたくさんいる中で大きな声で表せるものでもなく、普段の評価基準では、計測できないます。その能力は、テストの点数や成績などには表れない。数出す」。その能力は、テストの点数や成績などには表れない。数はかです。駅前の一般人観光客がたくさんいる中で大きな声でに行くこともこちらで指示しています。やることを与える。道なくて「引き出す」を大事にしています。やることを与える。道はからやり始めた行動です。それも見ている大人がドキドキしに行くこともこちらで指示したわけでもなく、子ども達が自分に行くこともこちらで指示したわけでもなく、子ども達が自分に行くこともこちらで指示したわけでもなく、子ども達が自分に行くこともこちらで指示したわけでもなく、子ども達が自分に行くことを与える。道なくて「引き出す」を大事にしています。やることを与える」ではなくて「引き出す」を大事にしています。やることを与える。道なくて「引き出す」を大事にしています。

かもしれません。
して得られない楽しさです。楽しませてもらうのではなく、自して得られない楽しさです。楽しませてもらうのではなく、自る」のです。これはゲームやテレビなど受動的な遊びからは、決てしまうほどの積極性でした。まさに、子ども達が「楽しんでい

たので次に紹介させていただきます。守る」という姿勢であたりまえに実践している学校がありましいのではないでしょうか。しかし、その「待つ」ということを「見学校で、大人である教員がここまで待つことはなかなか難し

「キャンプファイヤーで感動?」

い!」「班長会議は何時からですよ!」というスケジュールに寄い!」「班長会議は何時からですよ!」というスケジュールに寄いです。多くの場合、「はい、何時までに就寝だから早くしなさいです。多くの場合、「はい、何時までに就寝だから早くしなさいです。多くの場合、「はい、何時までに就寝だから早くしなさいです。多くの場合、「はい、何時までに就寝だから早くしなさいです。多くの場合、「はい、何時までに就寝だから早くしなさいです。多くの場合、「はい、何時までに就寝だから早くしなさいです。多くの場合、「はい、何時までに就寝だから早くしなさいです。多くの場合、「はい、何時までに就寝だから早くしなさいです。多くの場合、「はい、何時までに就寝だから早くしなさは、です。という教員が何人もいたのです。この光景はなかなか珍しなです。といる教員が何人もいたのです。この光景はなかなか珍しまない。どことなく繁張感が伝わっているのです。指示・と出逢いました。さらに、印象的だったのは、キャンプファイヤーが終われました。さらに、印象的だったのは、キャンは、日本の場合が、日本のように、その公立小学校と出逢いました。

うです。どうやらこれらは、「先生方の日々の積み重ね」の結果だったよどうやらこれらは、「先生方ので校長先生にお話を聞いたところ、景がどうしても気になったので校長先生にお話を聞いたところ、り添ったセリフとともに戻ってくることが多いのです。その光

教員がファシリテーター」

サー。先生方は、セコンドで声援、アドバイス、メンテナンスを 生達なのです。例えるならば、子ども達は、リング上で戦うボク ように見せるのがうまい子どもが育つ。うまく乗れない子ども れない子どもは、はじかれていく。その結果、うまく乗っている 乗せようとする。うまく乗れた子どもは、褒められる。うまく乗 でしょうか。その一つが、 自己顕示欲を満たすための関係にな あるとした上で、裏目に出てしまう部分も多くあるのではない えられる人」という関係。「指示命令する人と従う人」という関 する役割。まさにファシリテーターとしての立ち位置です。 の中心にいて、その子ども達を程良い距離で支えているのが先 は自分の想いに重い蓋をして過ごす。この小学校を見ていると ってしまうこと。自分の価値観もしくは学校の方針のレールに 係が見えてきます。それはそれで、一定の効果や役割・必要性は ると、「教える人と教えられる人」という関係。「 与える人と与 |先生=教える人」という前提で先生と子どもの関係を見てみ 関係性の中では、子ども達から見た先生とは、きっと、「何 前述のような関係があまり見られない。子ども達が行事

を強く受けました。
たされることを知っているのではないでしょうか。そんな印象かし、子どもを信頼した方が、結果的に、自分も(先生方も)満言え、先生方も人間だから、もちろん、それがゼロではない。とはう姿勢があります。だから、自己顕示欲を出す必要がない。とはいます。そして、その根底には、先生方も子どもを信頼するといいます。

長期的、継続的にかかわるからこそ

塾では、早急な成績 UP が求められます。テーマパークのよう果や変化をすぐに求めずにできるスタンスです。例えば、学習待つ、見守る、受信する。学校という日常の中だからこそ、成

という安心感と信頼感がある先生として認識しているように思

もしてくれない先生」というではなく、「何をしてもいいんだ」

長期的 いる感満載の学校行事では辿り着けない「楽しさ」はそういう 重ねができます。子ども達が思う「学校の楽しさ」、やらされて 体的に動き出すまで、待ち、見守り、引き出すという日々の積み な娯楽施設では、早急な満足感が求められます。その点、学校は ところに下支えされているのではないかと推測しています。 かつ継続的にかかわることができるので、子ども達が主

勉強と興味関心を繋ぐ学び方」

こなかったのでここではあえて、学びの楽しさに焦点を当てて みたいと思います。 というコメントをもらいました。勉強や授業という言葉が出て みたところ、友人と遊ぶこと、休み時間、給食、学校行事、先生 いうことなのでしょう?何人かの子ども達にインタビューして そもそも、 楽しさとは何でしょうか?学校の楽しさとはどう

す。大好きな本の中の世界から、自分の生きている現実の世界 けで「ハーブ」に夢中です。ハーブティーやハーブスプレーを作 らこそ、いろいろな学びが楽しさに変っていきます。 ったり、ハーブの本をノートにびっちり書き写したりしていま へ興味関心を基に実現できることがあるのはとってもワクワク ある小学生の女の子があんびるやすこさんの児童書がきっか いわば、「最高のモチベーション」です。この状態だか

く現物を見て触れて香りを感じれば本で得た知識が定着します。 定着すれば知識 例えば、 ブの専門家である店主の あんびるやすこさんの本を持ってハーブ屋さん行け を活用したくなります。ハーブティーを作るた 方と話が弾みます。写真ではな

> 学んでいる」姿そのものです。 にトライ&エラーを繰り返します。これは主体的に「学び方を をして酸っぱ 決められ いだの甘いだのと味覚に集中してその情報をもと た分量を量るために算数の知識を使います。 味見

習った漢字が出てきて書けるようになります。それが小さな喜 す。「書けないけど読めるようになるっていいよね」と言っ びになります。まだ知らない漢字が出てくると一つ一つ読み方 しながら楽しそうに学びを深めていきます。このように、 を調べたり聞いたりしてだんだんと読めるようになっていきま また、ハーブの本をひたすら書き写していくと、最近、 たり

まさに、「学校での学びの楽しさ」ではないでしょうか。 学校での国語や算数があってこその本を読む楽しみができ、 このふたつのバランスがいいと学びが深まります。これこそ 自分の興味関心のある分野を深めるために勉強をすること。 学校での勉強を自分の興味関心のある分野で活かせること。 ブティーを作ることができるのですから。

学校に楽しさを感じるのは

ハー

- ① 自分が主体的にかかわっている時
- できる瞬間でもあります。 この二つは、長期的、 2 学校で得た知識やスキルが体験とつながり、 継続的、 日常的にかかわる学校だからこそ 活用できる時